

そらうがく

(No. 47)

26.7.15 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



本年度の研究方針

生活・総合指導員 根石小学校 船越 学

■研究主題

『自ら探究し、共に学び合う総合的な学習の授業』

■研究の重点

- ・子供たちが、学びの中で感動を得られる授業展開を工夫する。
- ・体験や問題解決的な活動を繰り返す探究的な学習を通す。
- ・協同的な学びが実現できるよう、多様な学習集団や学習形態を工夫する。
- ・地域との連携を図り、地域の「人・もの・こと」を積極的に活用する。
- ・児童生徒に、自分のよさや成長を自覚させ、さらに伸ばしていけるような評価規準の設定や評価方法を工夫する。

■ESDの一番の担い手は、総合！

今年度は「国連ESDの十年」に当たり、十一月にはESDユネスコ世界会議やユネスコスクール世界大会が名古屋などで開かれます。

昨年度の常磐南小・六ツ美中部小の研究発表会からも、総合的な学習が中核となり、ESDの視点から重視する能力や態度を育んでいる姿が見られました。今年六月の常磐中の研究会においても、地域を愛する心を育み、持続可能な地域の在り方についての思いを深めながら、世界へ目を向けようとする子供たちの姿が見られました。

感動のある体験や出会いによって思いを高め、地域の「人・もの・こと」に関わりながら探究的で協同的な学びを創造していくこと。今年度の「研究の重点」を目指すことこそが、ESDの実現への道と言えます。

考え合う・話し合う・学び合う

総合的な学習部長

金指 由香里

「スクールガードの方のお話を聞いていると、僕のものではない小豆坂のことばかりで、これから、もっと自分で調べてみたくなりました。」

四年生は、かがやきタイム（総合的な学習の時間）

で「ふるさと小豆坂・環境未来プロジェクト」に取り組んでいます。「私は昔、長池にあった競馬場のことを詳しく知りたい」「僕は野鳥クラブなので、小豆坂のため池に来る野鳥のことを聞きたい」それぞれが自らの課題を見つけ追究を始めています。まず毎日登下校の安全を見守ってくださる身近なスクールガードさんに、話を聞いてみたいということになりました。毎日お会いしているお年寄りが、豊富な知識を持っていて、小豆坂のことをとても大切に思っていることに驚いた子供たちは、目を輝かせてお話を聞いていました。課題を追究する中で、自分もこの小豆坂の一員である自覚や誇りを感じる「価値ある学び」が展開されつつあると感じました。

本年度総合的な学習部では『自ら探究し、共に学ぶ合う総合的な学習の授業』を研究主題に掲げ取り組んでいます。体験的な学習や探究的な学習を積極的に行うことで、「自己の生き方」について考えることができ、そのことを目的としています。そしてそのために「総合的な学習の授業」をどのように構築するのか、各学校で様々な実践や研究が展開されていくことが期待され

ます。

六月、さいたま市で開催された日本生活科・総合的な学習教育学会の全国大会で、埼玉大学教育学部附属小学校での授業公開と研究協議会に参加しました。五年『わたしたちの国「日本」ってどんな国』では、外国人との交流を体験・追究活動の場とし、異文化や日本文化のよさについて理解を深め、自分の生活との関わりについて考えていました。授業協議会で文教大学嶋野道弘教授から、次のようなご助言を伺いました。

- ・授業のよさとは「考え合う、話し合う、学び合う」場面に溢れていることである。
- ・思考力を高めるには、「聞いてもらっている」「話してよかった」という、話していること存在を承認する「聞く」姿の確立が必要である。
- ・拡散と収れんを繰り返しながら、子供たちの思考力は深まるので、「思考ツール」を活用して、考えを可視化することは効果的である。

今回の学会では「生活科・総合で育った学力に関する調査研究報告」が注目されました。国立教育政策研究所が示した「二十一世紀能力」の学問的根拠についても話題になりました。基礎力・思考力・実践力を高めるため、総合的な学習の果たす役割は大きくなってきています。「社会スキル」「パフォーミングステート」等の新たな提案も視野に入れながら、今こそ「考え合う、話し合う、学び合う」総合的な学習の時間の授業作りを、大切にしていきたいと思います。

夏の研修案内

研究・研修報告

岡崎総合的な学習研究会の活動報告

★授業力アップセミナー ～基礎編～

日時 平成二十六年七月三十一日(木) 九時～十二時
場所 総合学習センター 小ホール
内容 ・実践発表 豊富小 竹内謙作先生
「お米にかける三浦さんの思いに迫り、
食の未来を考える
～米作りの八十八の苦労から～」

- ・学年別フリートーク
- ・名古屋大学 久野弘幸先生による講話
「育成すべき資質・能力」と

今年度は、探究的・共同的な学びは、どこにつながるのかを考えた授業づくりについての研修を行います。学年別フリートークでは、各校の実践状況と、問題点などを話し合い、今後の実践に役立ててください。

★三教研夏季研修会

日時 平成二十六年八月五日(火)
場所 岡崎市民会館・甲山会館
内容 講演

学校法人 奈良学園 奈良学園大学
人間教育学部教授 善野 八千子様
「力と夢を育てる学校づくり・授業づくり」
総合的な学習を通して～

講演後、テーマ別の分科会において、藤川小 柵木弓先生が、実践発表されます。他にも、三河各地の優秀な実践発表が報告されます。ぜひ、ご参加ください。

★岡崎市教育研究大会

日時 平成二十六年九月二日(火) 十三時四十五分～
場所 シビックセンター 体育集会室
先日提出された中間報告では、各学校の特色を生かした熱意ある実践が期待される報告ばかりでした。今年度も鳴門教育大学教授の西村公孝先生を助言者としてお迎えし、ご指導をいただける予定です。多数の方のレポート提出と積極的なご参加をお待ちしています。

全国大会に参加して

生活・総合指導員 根石小学校 船越 学
六月十四日(土)・十五日(日) 埼玉県さいたま市で行われた第二十三回日本生活科・総合的学習教育学会に参加しました。十四日の午前中は、さいたま市内の小・中学校及び幼稚園で、公開授業・保育とそれをもとにした研究協議会が行われました。午後の自由研究発表では、矢作中の高沢秀昭先生が藤川小での実践を発表され、岡崎の実践の確かさが評価されました。

その後の課題別研究発表では、野田敦敬先生と村川雅弘先生とコーディネーターの久野弘幸先生によって、これまでの生活・総合によって子供たちにとってどんな学力が育ってきたかを明らかにする調査の中間発表が行われました。全国の子供たちに対して行った調査を分析した結果、情報活用能力・協同的に問題を解決していく能力・地域社会へ貢献しようとする意識・新しい社会的課題へ挑戦する意欲などが育ってきていることが明らかにされました。

十五日は、「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」と題し、シンポジウムが行われました。無藤隆先生(白梅学園大学)の基調講演では、グローバルに活躍できる日本人を育てるためにこそ、次の学習指導要領の改訂が行われなければならないことが話されました。その中味として大切にされるべきは、活用力・言語力・思考力・問題解決力であり、学びへの能動的姿勢であるとされました。その後のシンポジウムでも、これからの社会では「何を知っているか」よりも「何ができるか」が必要であることが確認されました。

これからますます、能動的に学びを作り上げていく、総合的な学習の時間の果たす役割が大きくなることを再認識できた大会となりました。

矢作中学校 高沢 秀昭

六月十七日(火) 十八時三十分より、「岡崎市ホテル学校」において岡崎総合的な学習研究会&生活科道場が開かれました。二十名を超える多くの参加者にお集まりいただき、岡崎市役所浄水課課長の秋元さんと岡崎市役所自然共生課の山之内さんを講師に招いて『ホテル学校から学ぶ』をテーマに学習会を行いました。

最初に、「ホテルクイズ」に挑戦しました。ホテルに関する問題のクイズを○×で予想し、館内の展示物を見たり説明を読んだりしながら答えを探し出します。

次に、秋元さんがクイズの解説をしてくださりました。ゲンジボタルはオスもメスも光ること、日本のホテルで光るのは半分程度であること、そして、成虫だけでなく、卵や蛹なども光ることなど、ホテルの生態の秘密を知ることができました。次に、「ホテルマスターファミリー講座」の紹介がありました。①自然とふれ合う②自然を知ろう③自然を理解しようというねらいで講座が開催され、ネーチャールゲームなどの魅力的な活動が取り入れられていることが分かりました。その後、グループに分かれて、「みんなのホテル川」という体験活動に参加しました。秋元さんから指示された内容に従って、ホテル川を開発していくものです。幹線道路やコンビニ、化学工場、マンションなどを地図の中に貼り付けていきます。その作業の中で、「環境を配慮した開発への思いや考え」が位置づけられていきました。ホテルの苦手な光を遮る工夫だけでなく、マンションなどから出る生活排水にも目を向け、広い視野で開発について考えていかなければいけないことを学びました。最後はイヌバサ地域でホテルの観察会を行い、参加していただいた先生方と自然の中に広がる幻想的な風景を堪能することができました。自然と共生する大切さやすばらしさを学んだ学習会でした。